



宇宙

Vol.51

● 題字は深町正嘉氏



日田祇園山鉾集団顔見世にて

全体研修会	2
聖陵ストリーム施設長紹介	3
深見博也先生	
かんたんレシピ no.3	3
白玉粉で簡単おはぎ	
震災復興ボランティア参加後記	4
病院の仕事紹介	6
第3回 医療事務	

聖陵トピックス	7
花月グラウンドゴルフ大会・芸能隊	
バス遠足・聖涼祭	
日田漫歩 ③⑦	8
一輪咲いても…	
今後の行事	8
クリスマス会	

全体研修会

7月2日（土）聖陵会の平成23年度全体研修会がパトリア日田の小ホールで開催されました。今回は一般の方々にも公開しての研修会となり、聖陵岩里病院の院長山田和典先生が座長を務めました。

①JRE「嚙下リハビリの効果について」

～谷口初子、桑野早苗

②安全管理「身近に潜む危険について」

～藤田弘美

③感染対策「院内感染症事例の研究」

～小南達矢先生

と聖陵会より3つの演題について発表がありました。

さらに、特別講師として九州ルーテル学院大学客員教授をされている大畑誠也先生に来ていただき「挨拶が一番～すべてはここから始まる～」と



特別講師

大畑誠也（プロフィール）

1947年熊本県生まれ。

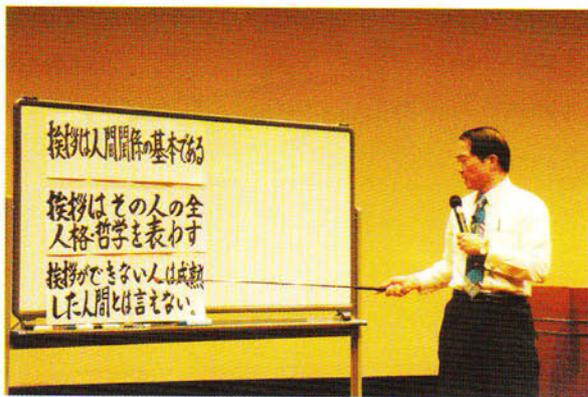
1972年熊本大学法文学部法学科卒業後、熊本県立天草農業高校へ社会科教諭として赴任。

同県大津産業高校、教育庁学校人事課教育審議員を経て、1995年熊本県立天草東高等学校長に就任。

その後、菊池高等学校、熊本商業高等学校、八代高等学校、第一高等学校の学校長を歴任され、2007年に熊本県立盲学校長に就任。「挨拶」と

「挑戦」を掲げ、指導開始。朝の挨拶はほぼ100%となり、「挑戦」ではアンサンブル部が熊本、九州、全国大会で金賞を受賞、マスコミに大きく報道される。

2008年4月より、九州ルーテル学院大学客員教授に就任。



題し特別講演をして頂きました。

先生は「人が人として成長するにはまず挨拶から」と挨拶の大切さを繰り返し説かれ、まずは家庭内で朝家族に『おはよう』と挨拶するのがすべての基本と言われていました。朝起きて「おはよう」というのはごく当たり前の風景ですが、最近ではそれすら実践できていない家庭もあるということです。

家庭での挨拶を徹底して行ったところ、家庭外の人間関係と能力の開花に繋がったとのことでした。

挨拶をするというのはお互いを認め合うこと・・・私たちは一番大切なことを日常生活の中に埋没させていることが多いように感じました。

大畑先生すばらしい講演をいただきまして、本当にありがとうございました。

また、当日ご来場頂いた一般の方々もご参加頂きありがとうございました



平成 23 年 4 月に福島より日田に来られ、聖陵ストリームの施設長に就任しました。



深見 博也先生

診療科目：外科

略 歴：慶応義塾大学医学部卒

ドイツ留学

老人保健施設長（平成 9 年～）

先生からのお話

「あなたの寿命」

私たちの源は一つの卵です。一つの細胞が分裂して数が増えて、同時に機能分化して、身体の諸器官が形成されて生まれてきます。そういうわけで人は細胞の塊であるわけですが、その全身の細胞の一つ、一つは、原則として、発生した時に神様から「分裂の回数券」を受け取っています。

回数券は50枚つづりで、細胞が分裂する度に1枚ずつ切り取られてゆきます。約2年に1回細胞分裂すると、100年で回数券はなくなり、細胞は分裂できなくなり、人は寿命になります。

さて、細胞分裂は、細胞が傷ついたとき、あるいは年老いたとき、健康な細胞が分裂して、傷んだ細胞を置き換えるのが目的です。例えば、心臓から続く大動脈は、弾力筋繊維が管状に連なっており、内側を血管上皮が覆っています。高血圧や高脂血症など生活習慣病（メタボ）になると、血管の構成組織に負担がかかり、内皮細胞は傷害され、隙間からコレステロールなどが侵入、動脈硬化症となり、血管に潰瘍が発生します。これは一大事と健康な内皮細胞分裂して、血管内皮を修復します。

ヒトが不摂生して、メタボが毎日持続すると、内皮細胞の「回数券」はほとんど消費されてしまいます。回数券が無くなると、血管内皮の損傷は修復されなくなり、血管は手を入れないガタガタ道路になります。脳動脈にこれが起こると、脳梗塞、脳出血が起こります。

みなさん、回数券を無駄使いして、寿命が早く来ることがないようにしてください。

かんたんレシピ♪ no.3 白玉粉で簡単おはぎ



【材料】材料6個分

炊いたご飯…80g 白玉粉…80g

水…80～90g

塩…少々

(お好みで)

餡子(市販の茹で小豆使用)40g

きなこ 適量

練乳ずんだ

茶(枝)豆20g(皮を除いて)

練乳7g



【つくりかた】

冷めたご飯をラップに包み、手のひらで何度かおして半分ほどつぶしておく

1. ポールに白玉粉と塩、水80gを入れよくこねたら、残りの水を少量ずつ加え様子をみながら耳たぶより少しやわらかくなるまで混ぜていく

2. 1.に適度につぶしたご飯加え、なじむまで混ぜる

3. 生地を6等分に丸め、ラップをかけて600wのレンジで約1分あたためる

4. あとは祖熱が取れたらラップをはずし、きなこをかけた餡子をのせて出来上がり

(練乳ずんだ)

・茹でた茶豆をすり鉢にいれ、ほどよくつぶしたら、練乳を混ぜて出来上がり



震災復興ボランティア参加後記

7月10日～17日の間、聖陵ストリームの職員3名が、宮城県石巻市へ震災復興ボランティアに参加しました。現地では、主に瓦礫の撤去や住宅内に溜まった泥の掻き出しなどを行い、ニュースで聞いている現状よりも悲惨な場面も多々あったようです。

私たちが行って来た所は、宮城県の「石巻市市街」「女川町」の2ヶ所だけでしたが、それでも地震や津波の被害に遭われた範囲からするとほんの一部です。

独特の空気、トラックに巻きあげられた砂埃、デコボコの道路、魚の腐ったようなあの生臭い臭いと、汚水とか汚物の嫌な臭いを掛け合わせたような何ともいえない臭さ。また、たくさんの瓦礫の山や基礎が剥き出しになって壊れている家や、傾いた家もたくさんありました。一見何ともなさそうな家でも床下には大量の泥が溜まっていました。車の残骸が山のように積まれた所や、田んぼの中にまだ撤去もされていない車が何台も残されていた所もありました。

ボランティアに参加し、実際に行くことが出来て、新聞やテレビでしか見たことがなかった光景や、凄い、惨い、憎い、津波という大自然の驚異を現実のものとして目の当たりにしました。ボロボロで何もかも無くなってしまった家並みや学校、本当に何も無い、見渡す限り何も無い、本当に・・・何も・・・。人間の無力さを思い知らされました。しかし、同時に、この国を、この町を復興させようという人間の力強さや底力みたいなものも見てきたように思います。

今回の活動では、自分の中の「少しでも力にな

りたい」という思いが、ボランティアという形で動くことができました。誰が何と言おうと、本当に行って良かったと、良い体験・経験になったと思います。今までは、募金という形でしか支援出来ませんでした。今は自分の中に実感があります。まだまだ復興には多くの時間がかかります。そして、まだまだたくさんの「人の手」が必要だと思います。こういった大きな災害であっても、時間が経つにつれて人の記憶や気持ちは薄れてきます。これからも微力ではありますが、義援金という形での支援を続けていきたいと思っています。聖陵会でも毎月義援金を集めていますので、皆さんにも応援していただきたいと思っています。

今回、年齢も違う、職業も違う人たちが、復興支援という一つの目的のために震災ボランティアという形で集まってきました。その中で、一人ひとりが、誰かに言われるわけでもなく、それぞれに自分の出来ることを出来る範囲でやって、いろんな意味で協力してよくまとまったな～と感じました。こうやって、災害ボランティアへの手配をしてくださった日本救急援助隊の皆様、関係者の皆様に深く感謝いたします。「復興」という言葉の意味を初めて本当に現実を感じ、大変貴重な経験・体験をすることが出来た旅でした。本当に有難うございました。

井上 旭





私達が行ってきた主な作業は、津波により床上浸水した家屋の床や壁を壊し、床下に溜まった泥やヘドロを除去する作業でした。そこでも、津波の威力や恐ろしさを目の当たりにしました。そんな状況の中で、私はその家主に対して、どんな顔して何を話せばいいのか分からずに複雑な気持ちでいましたが、意外にも家主の方は明るく、私達に対して親切に接してくれました。私は当初、ボランティアに参加するにあたって「被災された方たちに微力ながらも何かしたい・力になりたい」と思っていました。しかし、現地の方々に接していく中で、いろんなことを学び、感じ、逆にたくさんのモノや気持ちをもたらしたように思いました。避難所を後にする際、どんな別れの言葉より先に「ありがとうございました」という言葉が自然に出たのもそのためなのかと思います。

今回、このボランティアを通して多くのことを経験することが出来ました。再度このような機会があれば、また参加し、少しでも自分が出来ることを積極的に行っていきたいと考えています。

松岡 重喜

今回は、避難所での生活支援ボランティアが主な活動内容でした。避難所にはクーラーが無く、扇風機だけの暑い環境の中、家での生活ができない方や家族をなくされた方やお年寄りの方達が不安な想いを抱えて毎日過ごされていました。避難所に居られる方達はとても明るく、前向きで、中には「震災のことを思い出すと涙が出てくるけど、これから先のことを考えないとね。泣いてばかりでも仕方がないし、吹っ切って頑張らないと！！」と笑顔で話してくださいる方もおられ、逆に私のほうが泣きそうになりました。活動最後の日には、避難所にいる方達を集めて折り紙や工作を楽しむことが出来ました。帰り際には「別れじゃないからね」「私達のことを忘れないでね」と抱き合いながら泣いて別れを惜しみました。1週間はあっという間で、もっともっと自分に出来ることがまだまだあるんじゃないかと、後ろ髪を引かれる思いで帰ってきました。これからも、いろんなボランティア活動の機会を持ち、参加したいと思っています。

武内 智加子

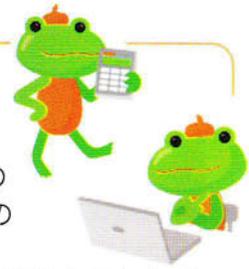


こんなことをやっています！

医療事務とは

厚生労働省が定める診療報酬を基に、患者が支払うべき医療費の計算や、健康保険の請求金額などを計算しレセプト(診療報酬明細書)を作成・点検するのが主な仕事の内容です。

レセプト作成・点検の他、医療機関での入院窓口、外来受付窓口、会計窓口などの受付業務や医師や看護師等の各分野のスタッフの活動を円滑になるようサポートを行うのが医療事務の仕事です。



事務のお仕事

8:20 朝礼

その日の報告事項、身だしなみチェックを行う



【担当分け】

①受付

電話対応、窓口対応、カルテ作り、カルテ上げを行う



②外来

カルテ処理や計算がスムーズに行えるようカルテの移動や内容チェックを行う



③計算

診察が終わり降りてきたカルテ順にコンピューター入力、処方せん発行を行う



④会計

計算が終わった順から会計を行う



【レセプト】

月初～10日間残業し、レセプトに記載されている病名や診療内容のチェックを中心として記載内容に不備がないか確認している



【病棟クラーク】

入院患者さんの治療内容のPC入力、カルテ整理、病床数等の管理等、看護師と情報を共有し業務を行う



(聖陵岩里病院)

わたしたちがSIB14です



1F～3Fいろんな所で見かけると思いますが、気軽に声をかけてください



下は22歳～上は?歳まで、姉妹のような仲間と共に、時には厳しく、毎日明るく業務を行っています。岩里病院の事なら何でも気軽にお尋ねください☆

花月グラウンドゴルフ大会

4月9日(土)中城グラウンドにて、花月クリニック患者さん対象の第10回花月クリニック杯グラウンドゴルフ大会が開催されました。

総勢42名の患者さんに参加して頂き、楽しい一日を過ごす事ができました。

1位を獲得したのは、森山喜八郎さんと河津輝幸さんの2名です。スコアもホールインワンの数も同等で、2人ともグラウンドゴルフの達人です。



バス遠足

6月5日(日)、外来患者さんと病院職員で、長崎県佐世保市へバス旅行に行ってきました。

雨が降る中での出発となりましたが、長崎に着く頃には雨も止み、当初の予定通り、最初の目的地であるパールシーリゾートで遊覧船に乗り、九十九島めぐりをする事が出来ました。お昼は、九十九島観光ホテルで豪華な昼食を頂き、皆さん大満足です。昼食後には、佐世保市を一望できる弓張岳の展望台に登り、景色を堪能しました。帰りのバスでは、今回の観光地が舞台の『つりバカ日誌16』を観ながら、実際に行った観光地の話で盛り上がりました。



来年のバス遠足も是非ご参加ください。
院長 山田



芸能隊

日田川開き観光祭での「芸能隊」出場の際は、足元の悪い中、皆様からお花や温かいご声援をいただき心よりお礼申し上げます。

雨に打たれましたが、沢山のご声援のおかげで頑張ることができました。

皆様からいただいたお花代の益金は震災被害を受けた地域への寄付金とさせていただきます。

ご支援、ご協力ありがとうございました。



聖涼祭

毎年恒例となっている、聖涼祭が8月6日(土)聖陵ストリームで開催されました。

今年のテーマは『風神・雷神』～相馬に吹く風～。風神・雷神は『人間が太刀打ちできない自然の脅威』という意味で、理事長がとりあげました。相馬に吹く風は未曾有の災害にあわれ、復興の道を進んでいるすべての方に『何か出来ることがしたい』という世界中が馳せている想いを風に込めました。

当日は、あいにくの雨でイベントは屋内で行われましたが、夜には雨もあがり、盆踊り、抽選会は屋外で行う事ができ、大いに盛り上がりました。屋台では、福島の郷土料理である天ぷら饅頭を販売したところ即完売。また、福島県から日田市に避難しているご夫婦も招待することができました。

お足元の悪い中、多くの方にお越し頂きありがとうございました。

なお、バザー、屋台の売り上げの一部を福島県相馬市へ寄付させていただきます。



一輪咲いても…

楢原義則



日田の林業・木材業界が華やかなりしころ、芸者遊びもまた盛んだったという。

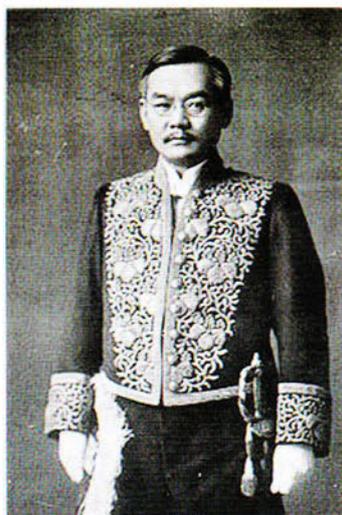
ある長老は「隈、豆田両地区に（芸者を取り次ぐ）検番があった。妾宅を構える旦那衆も多く、遠く別府や博多に通う人もいた。「夫婦げんかがさぞ多かった？」と問うと、「若い夫婦はともかく、『あれはもう病気』と半ばあきらめ顔の老妻もいた」などと、いろんなエピソードを聞かせてくれた。

暑い盛りの居酒屋。悪友と中央の政局の話になった。「最近の政治家は小粒ぞろいで面白みに欠ける」と悪友。小生も「そうだよなあ。混沌とした時代を背景にした戦後、ユニークな政治家が群れをなした。吉田茂、大野伴睦、河野一郎…」と並べるうち、ひょいと長老の艶話を思い出し、「なかでも艶福なのは三木」。

三木武吉。1955年、自由・民主両党の保守合同の立役者。「ヤジ將軍」「政界の大狸」などの異名がある。1920年の国会で高橋是清蔵相が陸海軍予算について「陸軍は10年、海

軍は8年の…」と言いかけるや、「ダルマは9年」とヤジを飛ばした。高橋のあだ名の「ダルマ」と達磨大師の「面壁9年」の故事をもじった当意即妙はあまりにも有名。

戦後の総選挙の立会演説会。対立候補が「妾を4人も持つ不徳義漢に国政の資格はない」と非難。三木は「事實は5人」と訂正した上で、「今日では老来廃馬だが、捨て去るとき不人情はできぬ。皆、幸せだ」と応じ、会場は大爆笑。正妻は別扱いで大事にした。今なら1人でも首が飛ぶ。この逸話、おかしみがある。



筆者は永年「一輪咲いても花は花一夜添うても妻は妻」は三木の言葉とっていたが、調べると、添田唾蟬坊の明治末期の「ラッパ節」に出てきた。元々は、花柳界に由来か？

三木武吉

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

Seiryō 今後の行事

聖陵会では12月にクリスマス会を開催しています。毎年クリスマス会では職員が考えたテーマに沿って会場の装飾や演芸などいろいろな催しを準備しています。今年も職員一丸となってクリスマス会を盛り上げたいと思いますので是非ご来場をお願いします。



編集後記

日田では9月に高塚愛宕地藏尊の秋の大祭や日田放生会、10月には小鹿田焼の民陶祭や鯛生金山まつり、11月には天領まつりなどの行事が目白押しです(^-^)運動会シーズンでもありますし、いろんなイベントにお出かけて忙しくなりそうですね♪



医療法人 聖陵会

- ホームページ <http://www.seiryou.or.jp/index.html>
- E-mail seiryou@seiryou.or.jp

救急指定 聖陵岩里病院

介護老人保健施設 聖陵ストリーム

- 居宅介護サービスセンター
- 訪問介護サービスセンター
- こども発達・支援センター銀河

聖陵花月クリニック

アンコール小児病院(カンボジア)